



アクセルフロアブル



殺虫剤分類

22B

農林水産省登録

第22461号

有効成分

メタフルミゾン 25.0%

その他化管法該当成分

ポリ (オキシエチレン) =アルキルエーテル (1種) 1.3%

性状

類白色水和性粘稠懸濁液体

人畜毒性

普通物 (毒劇物に該当しないものを指す通称)

有効年限

5年

包装

500mL × 20本

特長

✓ 難防除害虫や既存剤抵抗性害虫に有効
難防除害虫の大型チョウ目やキスジノミハムシにも優れた効果を発揮します。

✓ ローテーション防除に活用しやすい
新しい化学構造の殺虫剤なので、既存剤抵抗性害虫にも有効です。そのため、ローテーション防除に組み入れやすい薬剤です。

✓ 害虫からの食害を停止させます
作物への食害を抑制するため、きれいな作物の生産に役立ちます。

適用作物と使用方法

作物名	適用害虫名	希釗倍数	10アール当り使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ゴマダラカミキリ	200倍	5~200ℓ	収穫7日前まで	3回以内	主幹から株元に散布	3回以内
		1000~4000倍				散布	
	アゲハ類 ヨモギエダシャク クワノミハムシ ミカンナガタマムシ	1000~2000倍	200~700ℓ			無人航空機による散布	
	ゴマダラカミキリ	12倍	4~8ℓ		2回以内		
	アゲハ類 ヨモギエダシャク クワノミハムシ ミカンナガタマムシ	15倍	8~10ℓ				
		24倍	10~16ℓ				
	キウイフルーツ	ケムシ類			3回以内		
もも類	クビアカツヤカ ミキリ ケムシ類 ハマキムシ類	1000倍	200~700ℓ	2回以内	3回以内	散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
	クビアカツヤカ ミキリ	100~200倍	5~200ℓ			樹幹散布	
	コスカシバ	100倍			2回以内	散布	
	クビアカツヤカ ミキリ ケムシ類	1000倍	200~700ℓ			樹幹散布	
すもも	クビアカツヤカ ミキリ ケムシ類	100~200倍	5~200ℓ	3回以内	3回以内	散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
	クビアカツヤカ ミキリ	100倍				樹幹散布	
うめ	ケムシ類 クビアカツヤカ ミキリ	1000倍	200~700ℓ	3回以内	3回以内	散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
	ケシキスイ類	1000~2000倍				全面土壌散布	
		1000倍	100~300ℓ			散布	
とうもろこし 飼料用とうもろこし(子実)	アワノメイガ	1000~2000倍	100~300ℓ	3回以内	3回以内	無人航空機による散布	4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
		16倍	1.6~3.2ℓ			散布	
	ツマジロクサヨ トウ	1000倍	100~300ℓ			無人航空機による散布	
		16倍	3.2ℓ			散布	
アスパラガス	ハスモンヨトウ	1000~2000倍	100~800ℓ	3回以内	3回以内		4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
ごぼう	ハスモンヨトウ	1000~2000倍					
	ヒヨウタンゾウ ムシ類	1000倍					
トマト ミニトマト	トマトキバガ				2回以内	散布	
	オオタバコガ ハスモンヨトウ					散布	
ピーマン	オオタバコガ			3回以内	3回以内		4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
なす	オオタバコガ ニジュウヤホシ テントウ						
	ハスモンヨトウ	1000~2000倍	100~300ℓ				
にんじん	ハスモンヨトウ ヒヨウタンゾウ ムシ類	1000倍					
ねぎ	シロイチモジヨ トウ	1000倍	100~300ℓ	2回以内	2回以内	散布	2回以内
		8倍	1.6ℓ			無人航空機による散布	
		10倍	2ℓ				
		16倍	3.2ℓ				
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	1000~2000倍		3回以内	3回以内		4回以内 (樹幹散布は2回以内、散布は2回以内)
	ウリハムシモドキ						
	コナガ	1000倍					

キャベツ	アオムシ キスジノミハム シ		100~300ℓ	収穫前日まで	散布	3回以内	
	ハイマダラノメ イガ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ ウワバ類	1000~2000倍					
	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨトウムシ ウワバ類	8倍 10倍 16倍	1.6ℓ 2ℓ 3.2ℓ				
はくさい	コナガ アオムシ ハイマダラノメ イガ キスジノミハム シ ダイコンハムシ	1000倍	100~300ℓ	3回以内	無人航空機による散布	3回以内	
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ カブラハバチ類	1000~2000倍					
	コナガ アオムシ キスジノミハム シ ダイコンハムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ カブラハバチ類	8倍 10倍 16倍	1.6ℓ 2ℓ 3.2ℓ				
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000~2000倍	100~300ℓ	2回以内	散布	2回以内	
非結球レタス		8倍 10倍 16倍	1.6ℓ 2ℓ 3.2ℓ				
		1000~2000倍	100~300ℓ				
		8倍 10倍 16倍	1.6ℓ 2ℓ 3.2ℓ				
カリフラワー	コナガ アオムシ ヨトウムシ	1000倍	100~300ℓ	3回以内	散布	3回以内	
プロッコリー	ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000~2000倍					
	コナガ	1000倍					
	ヨトウムシ ハスモンヨトウ コナガ	8倍 10倍 16倍	1.6ℓ 2ℓ 3.2ℓ				
非結球あぶらな 科葉菜類	コナガ キスジノミハム シ	1000倍	100~300ℓ	収穫7日前まで	散布	2回以内	
	ハスモンヨトウ	2000倍					
だいこん	キスジノミハム シ ダイコンハムシ	1000倍					
	ハイマダラノメ イガ ヨトウムシ カブラハバチ類	1000~2000倍	2回以内	無人航空機による散布	2回以内		
	キスジノミハム シ ダイコンハムシ ハイマダラノメ イガ ヨトウムシ カブラハバチ類	8倍 10倍 16倍 20倍	0.8ℓ 1.0ℓ 1.6ℓ 2.0ℓ				
かぶ	コナガ アオムシ キスジノミハム シ	1000倍	100~300ℓ	収穫3日前まで	散布		

えだまめ だいす	ハスモンヨトウ	1000~2000倍		収穫前日まで	3回以内	無人航空機による散布 散布 無人航空機による散布 散布 無人航空機による散布 散布	3回以内		
		8倍	0.8~1.6 ℥						
		10倍	1.0~2.0 ℥						
		16倍	1.6~3.2 ℥						
	フタスジヒメハ ムシ	1000倍	100~300 ℥						
		8倍	1.6 ℥						
		10倍	2.0 ℥						
		16倍	3.2 ℥						
しょうが	ハスモンヨトウ アワノメイガ	1000~2000倍	100~300 ℥						
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ ヨツモンカメノ コハムシ	16倍	3.2 ℥						
		10~16倍	0.8~1.6 ℥						
		1000~2000倍	100~300 ℥						
さといも	ハスモンヨトウ	10倍	1.0~1.6 ℥						
食用ミニバラ	オオタバコガ	20倍	2.0~3.2 ℥						
		1000~2000倍	100~300 ℥						
きく	オオタバコガ シロイチモジヨ トウ	1000~2000倍							
花き類・観葉植物 (きくを除く)	オオタバコガ	1000倍							
樹木類 (さくらを除く)	ケムシ類	1000~4000倍		100~300 ℥	発生初期	散布	6回以内		
さくら	ケムシ類 クビアカツヤカ ミキリ	1000倍							
		200倍	5~200 ℥		成虫発生直前～ 成虫発生期				
		100倍	—		—				
たばこ	ヨトウムシ	1000~2000倍		25~180 ℥	収穫10日前まで	2回以内	散布		
	タバコアオムシ	2000倍							

※本内容は2026年1月21日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項



- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 使用前に容器を軽く振ること。
- 敷布量は、対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節すること。
- 本剤は植物体への浸透移行による効果は弱いので、かけ残しのないように葉の表裏に十分散布すること。
- 本剤をクビアカツヤカミキリに使用する場合は、次の点に注意すること。
 - ・樹幹注入で使用する場合は、被害樹の加害痕である木屑排出孔の木屑を除去した後に排出孔内に薬液が滴るまで注入すること。
 - ・散布で使用する場合は、樹幹部および主枝に十分量散布すること。
- うめに全面土壤散布する場合は、過度な降雨等により土壤に薬液が染み込みづらい条件では効果に影響を及ぼすおそれがあるので、使用をさけること。
- すももに樹幹散布で使用する場合、散布液が果実にかかると汚れを生じるおそれがあるので、果実にかかるないように十分注意すること。
- みずかけな（水掛け菜）、カラー、花はすに使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用すること。また、使用後14日間は入水しないこと。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ・ミツバチの巣箱及びその周辺にかかるないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ・関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかるないようにすること。
- 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ・散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ・散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ・散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ・散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ・散布終了後は次の項目を守ること。
 - (a) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
 - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項



- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
- 樹幹注入の際は手袋などを着用すること。
- 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも使用当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

魚毒性等

この登録に係る使用方法では該当がない。

保管

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

© ISK BIOSCIENCES K.K.